

山西小学校便り

山西っ子

《なかよく・かしこく・たくましく》




「山西小 ぽかぽかの木」が満開です。友達への「ありがとう」「すごい」という思いがあふれています。

令和3年1月27日(水) no.44 文責：上田

給食週間 食育で育てる力

今週は「全国学校給食週間」です。25日(月)に配付された「食育便り」はお読みになりましたか。学校給食の始まりや意義等について、あらためて気づかれたこともあったのではないのでしょうか。学校給食は『食育』の大切な学びの場として位置づけられ、小学校では「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」として全学年の特別活動(学級活動)でも指導することになっています。もう少し詳しく、学校給食法には次のように学校給食の目的が書かれています。

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについて理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んじる態度を養うこと。
- ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

①～⑦の下線にあるどの言葉も、子どもたちが大人になった社会においても大きな意味を持ちます。「日本では、今日も一人につき、おむすび1個分、合わせて1億個分以上の食べ物が捨てられています。」という「おむすびころりん」風のテレビCMをご存じかと思います。食品ロスの問題を考えると「生命及び自然を尊重する精神」「勤労を重んじる態度」「食料の生産、流通及び消費」などを学ぶことの大切さに気づかされると同時に、食糧生産の多くを海外に頼る日本だからこそ、地球規模で多くの人命にかかわる問題であると考えさせられます。子どもたちは、家族の食卓や教室での給食でたくさんのことを学んでいます。あのテレビCMも『食育』の大切さを教えているのです。

▼ 給食室への廊下の掲示



▲ 25日の「早寝・早起き・朝ごはんキャラバン隊」と1年生との学習。